

お知らせ 遠野市史写真展を開催しています

現在、遠野市立図書館1階ホワイエにおいて、遠野市史写真展を開催しています。

『新編遠野市史 現代編』の制作過程で収集した、昭和40年代から平成までの写真21点を展示しています。懐かしの遠野の街並みや建物、行事の写真に、職員も「そういえばこうだった」「こんなこともあったね」と思い出話をしながら展示作業をしていました。

今回の写真展は、遠野市立図書館の企画展「歴史の本」と同時開催です。『新編遠野市史 現代編』をはじめとする遠野市の歴史を紹介した本はもちろん、日本史、世界史、子供向けに昭和の暮らしを紹介した本など、さまざまな本を取り揃えています。

「遠野市史写真展」

9月9日(水)～10月4日(日)
午前9時～午後5時
遠野市立図書館1階ホワイエ
※毎週月曜日と月末日は休館日です



▲写真展の様子



▲『新編遠野市史 現代編』はもちろん、『遠野市史』『宮守村誌』もお目見え (閲覧のみ可能です)

部会の窓 第3回原始・古代・考古グループ会議を開催しました



▲会議の様子

9月2日(水)に第3回原始・古代・考古グループ会議を開催しました。

現在、遠野市史編さん原始・古代・中世部会では、令和5年度の「資料編」発刊に向け、構成の検討や調査、執筆を行っています。

今回は部会委員のうち考古グループの委員5名が集まり、「資料編」に掲載する城館遺跡や、空撮する遺跡について協議を行いました。今回の会議では、金取遺跡や綾織新田遺跡はもちろん、発掘調査が実施されている遺跡を中心に、「資料編」に掲載する遺跡がおおむね決定されました。今後は委員各自が担当する遺跡の執筆を進めていくことになります。



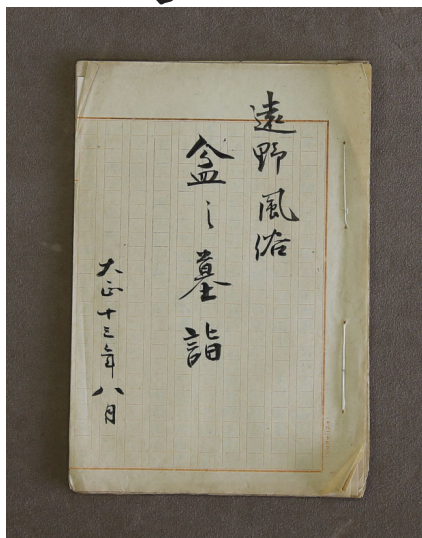
市史編さん室では、古い時代の資料や館跡を調査しています。
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。



遠野風俗 盆之墓詣

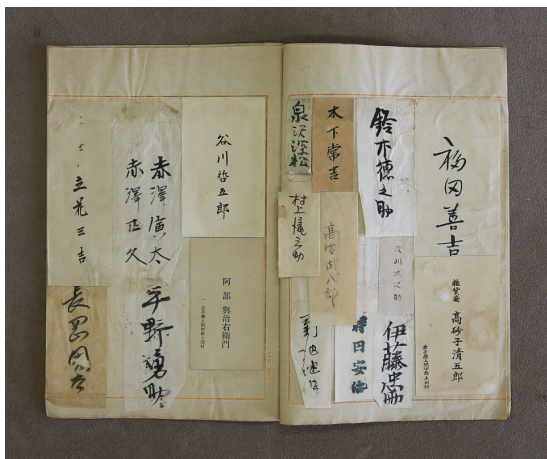
とおのふうぞく
ぼんのはかまいり

大正13年 鈴木重男著



◀「遠野風俗 盆之墓詣」表紙

▼鈴木家の墓に貼られていた名刺。新聞記者や印刷所などの名刺も見える。



「遠野風俗 盆之墓詣」は、大正13年(1924)に鈴木重男によって書かれた資料です。当時、盆に親戚や知人の墓参りをした際には、墓石に名刺を貼り付ける風習があり、特に名士の墓は「遠くから望むと白い鱗のようで甲冑のしころをつけたように」見えたと書かれています。墓参したのが誰かを知らせる意図があったと考えられますが、「商人風の3人」が「あとは張るところはないか」と言っているように宣伝の意味もあったのかもしれませんが。

この風習は、後年「名刺を置く」ように変化し、遠野では町方を中心に20年ほど前まで行われていたようです。一方、現在でもお墓用の名刺受けが販売されており、お墓に名刺をおくという風習が各地にあるようです。

鈴木重男(1881~1939)は教職を勤めながら郷土史の研究を行い、この資料を著した大正13年、遠野郷土館を開設して収集した資料を公開するとともに、伊能嘉矩や佐々木喜善らと共に遠野郷土研究会を創設しました。

ちなみにこの年、鈴木家の墓に貼られた名刺は、盆の3日間で62枚にのぼりました。



【翻刻文】

盆の墓参りは自分の家の墓ばかりでなく親戚や知人の墓までも押んで廻る。その時墓参の標に名刺を墓石に張りつける。この風はいつの頃からの風習か。知らぬが昔(維新前)はなかつたものなさうな。

今は絶えたが明治の末葉まで行はれた新年慶賀の廻礼に名刺を配つたのと同意味かもしれぬ。

世に時めく権勢家の墓や 徳望の篤かつた人の墓には二重の台石は勿論柱石までギッシリと名刺が張りつけられて遠くから望むと白い鱗のやうで甲冑のしころをつけたやうに思はれた。いくら金満家の墓でも徳のなかつた人の墓には五六枚の名刺がさびしく張りつけられている。それと見る人とは無言のうち「金があつても信望は買ひ兼ねた」といふ氣分で冷視し去るのである。

死後に於ける 民衆の裁判 と見れば見られぬ譯でもない。この意味からでもあるまいがよく尋ねて名刺を張つて歩く人はある。その人の名刺が寺々の墓石に殆どないところはなほ程克明に張られている。

ことしの盆中に私は常福寺の墓地で アトは張る所はないかなア と商人風の三人連が話しているのを聞いた。これでは詣でるのが先か 名刺を張り廻るのは先か 一寸判断に困る。世の中もかうまでなつては形式の生活 形式の儀礼 である。いかにたくさん名刺の張られた とて少しもあり難くもなければ裁判にもならぬのである。

この風習は村落にはまだ及んでいない。が町の人が村にいくとキット張つて来るから おおひおひ村でも行はれるであらう(後略)